

令和6年度 総合的な学習の時間 全体計画

江戸川区立小松川小学校

校長名 坂野 眞太郎

名称:総合的な学習の時間

学校の教育目標	心豊かな思いやりのある子 よく考えて進んでやりとおす子 健康な明るい子
----------------	---

国が示す総合的な学習の時間の目標	
<p>探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究的な学習の課程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。</p> <p>(2) 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。</p> <p>(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。</p>	

学校の総合的な学習の時間の目標	
<p>1身近な地域の自然や社会(ひと・もの・こと)にかかわり、仲間と協力しながら主体的・創造的・協働的に課題を解決する。</p> <p>2各教科・領域で身に付けた知識・技能を活用し、課題設定、情報収集、整理・分析・まとめ・表現する探究的に学習する。</p> <p>3身近な地域の人ののかかわりを通して、地域に対する親しみと愛着を深め、自分の生活の向上や自己の生き方を考える。</p>	

育てようとする資質や能力及び態度	
知識及び技能	
第3・4学年	第5・6学年
<ul style="list-style-type: none"> 対象との体験的なかかわりを通して課題に気付く。 課題解決の中で必要な知識・技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象とのかかわりの中で、課題を設定し、解決の方法や手順を考える中で必要な知識・技能を身に付ける。
思考力、判断力、表現力	
第3・4学年	第5・6学年
<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決にむけて行動する。 学んだことを生活と結び付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの生活のあり方を見直し、よりよいあり方を考える。 学んだことを生活の中で積極的に生かそうとする。
学びに向かう力、人間性等	
第3・4学年	第5・6学年
<ul style="list-style-type: none"> 自分の行為について意思決定する。 自分と地域とのつながりに気付き、地域に関わろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者と協力して課題を解決したりする。 自分と地域のかかわりを考えながら、地域と関わる。

内容	学習対象	学習事項
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織 	<ul style="list-style-type: none"> 地域をよくするために取り組む人々の思い、苦労
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史と子どもたちの生活の変化 自分たちが住んでいる町 日本の自然 	<ul style="list-style-type: none"> 時代の変化と自分たちの生活とのかかわり 災害の恐ろしさと防災意識の大切さ 地域の一員として災害・防災に備えた町づくりの活動 日本の様々な自然の特徴や、抱えている課題
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 小松川小学校の歴史 日本の伝統と伝統食 雪国の自然 	<ul style="list-style-type: none"> 小松川小学校の110年間の歴史 日本食と自分たちの生活のかかわり 雪国の自然や特徴
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> SDGs 将来との展望とのかかわりで訪ねたい人や機関 日光の地域や歴史的建造物 	<ul style="list-style-type: none"> 地域や学校をよくするための人々の思い 自分自身のよさへの気付きと将来展望 日光の自然や歴史的背景

学習活動	指導方法	指導体制	学習の評価
<ul style="list-style-type: none"> 単元は学年で開発し、展開に応じて学習形態を工夫する。 学年ごとに1年間2～3テーマを基本とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 探究的な学習の連続性を意識し学び合いの充実を図る。 各教科・領域との関連を図った指導の工夫に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校応援団をはじめとする地域の人材を効果的に活用する。 学校図書館、情報コーナーの充実に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人内評価を重視し、指導と評価の一体化に努める。 ポートフォリオを作成し、評価の充実を図る。